

2019年度

高齢者の交通安全指導員 情報交換会

10月31日(木) 滋賀県大津合同庁舎 7階7B会議室

平成22年度からクレフィール湖東で実施している「高齢者交通安全指導員養成講座」に参加し、その後、高齢者の交通安全指導員として登録して下さっている皆さん同士で「情報交換会」を開催しました。34名の方が出席して下さいました。

【第1部】講演 「高齢者の交通安全指導について」

講師：一般社団法人 日本自動車連盟 滋賀支部 生田 真様



ドライブレコーダーの事例から見た安全運転術や危険予知・事故回避トレーニング等、地域での実践型交通安全指導の実施を目的として講演していただき、皆さんに危険行動や安全運転への意識を高めながら学んでいただきました。

法令を順守すること（交通違反の防止）が事故防止につながる！！

☆車の運転は、認知→予測→判断→操作→認知→…の繰り返しであり、より安全な運転を行うためには、周りの状況を事前に確認、予測をすることや頭の中で危険（…かもしれない）を考えるなど、予測するスキルを上げること、正しい運転姿勢で余裕をもって運転することなどが大切であると聞きました。

☆①車線変更、②左折時の巻き込み、③右左折時の横断歩道、④駐車場などからの後退、⑤駐車場などからの前進時では、運転席から見えない「死角」部分をしっかり「目視」し、直接的にみることでしっかり安全確認を行うことの重要性をドライブレコーダーの実際の映像を見ながら確認しました。

【第2部】グループ別 情報交換会

それぞれの所属団体や各地域の老人クラブ等で交通安全指導に携わっておられる皆さんに日頃気になっていることや各自の活動の様子について情報交換していただきました。どのグループも活発な意見交流ができ、大変有意義な時間になりました。



『情報交換会』を終えて みなさんのアンケートより

【講演について】

- ドライブレコーダーの映像をいくつか見せていただいて、交通事故の恐ろしさがよくわかった。「繰り返し安全確認をする」「時間に余裕を持って運転する」この2つを心に留めて運転すれば、交通事故防止に結びつくと思った。
- 日頃気が付かないことが多くあることがわかり良かった。今後色々注意しながら運転する必要性がわかった。
- 再度運転には注意をしたい。他の人にも安全運転について、特にルールを守ること、スピードを出さないこと等伝えていきたい。
- ドライブレコーダーを見ての講演だったが、事故事例がわかりやすくて良かった。自分自身の運転で反省させられる事例もたくさんあり、自己過信な所を反省した。視野と死角が一番考えさせられた。
- ドライブレコーダー（実例）とわかりやすいお話で、理解が進みました。特に子どもと自転車の事故例がわかりやすかった。
- 画像による講話で、危険予知の必要性がわかり、今後の交通教室時に生かしたい。
- ドライブレコーダーの記録がリアルなので、自分の運転を見直すとともに、たくさんの運転者が家族を不幸にしないように、広く伝えたいと思った。
- ドライブレコーダーによる事故現場、危険現場の解説、原因、危険予測の大切さ、常に安全意識の大切であることの内容は、十分に参考になりました。
- 認知→予測→判断→操作→認知→…の「操作」をいかに身につけるかが重要。「予測すること」の大切さを大事にして指導したい。
- 高齢者の運転目線でのスライドでの講演、毎日の生活で有りうる事故・事例は本当に思い当たるだけに日々注意が必要。まわりの方にも時・場所を得た時に、注意をうながしていきたい。
- 事例による説明で、自分と比較でき、見直すことができた。何事も基本が大事。
- ドライブレコーダーを利用して危険な部分について詳しく説明をしていただき、よく理解できました。

【情報交換について】

- 参加者の皆さんの力強い意識を感じた。
- 地道に活動を続けることが大切。
- いろいろな地区での活動を聞かせていただき、参考になりました。



※交通安全啓発用紙芝居・DVD等の教材の貸出しができます。ぜひ御活用ください。